

2025
10

● 真宗大谷派京都教区 教化広報誌

教区だより

第4回連載

「女性教化」の近・現代史を紐解く

— 真宗大谷派の場合 —

大谷大学文学部歴史学科教授 福島 栄寿 氏

レポート

組門徒会研修会

特集

岡崎別院落慶法要円成

今、この時に、親鸞聖人に会う

長浜 第16組 大谷 京平 氏

「女性教化」の近・現代史を紐解く

―真宗大谷派の場合―

大谷大学文学部歴史学科教授

福島 栄寿



第4回

真宗の「女性教化」に関心を抱いた経緯（その三）

「仏教婦人雑誌」「家庭」を読む前に

前回は、浩浩洞同人や大谷派関係者によって編集発行されていた「仏教主義婦人雑誌」「家庭」の発見について述べました。これは、日本宗教思想史を研究する私にとって、とても大きな出来事でした。本欄では、次号以降、数回にわたり、具体的に『家庭』誌に掲載された特徴的な論説を取り上げて考察したいと考えています。その前に、今号では、『家庭』誌の論説を考察する意義について、説明します。

清沢満之研究を手がかりに

学生時代の私が日本の宗教思想史として学んだことは、明治時代の仏教は、「自己」とは何ぞや、これ人世の根本的問題なり（『臘扇記』）の言葉で知られる清沢満之の信念に行き着くという内容でした。したがって、清沢研究といえば、『清沢満之全集』（法蔵館版）を読み解きながら、彼の人生における信念獲得の歩みについて論じることが、一般的でした。研究者が各々に清沢論を主張していて、ご意見ごもっとも、とはなるのですが、議論が深まらない気がしました。清沢満之について、もっと深く理解するためには、清沢以外

の浩浩洞同人のことも知る必要があると考え、浩浩洞の論壇『精神界』に光を当てることを思いつきました。

早速に私は、『精神界』を取り上げてみました。例

えば、浩浩洞の活動と同じ時期に、迷信の排除や健全な信仰を掲げて活動していた新仏教徒同志会（井上円了が創設した哲学館の境野黄洋らが中心）は、機

関誌『新仏教』で、清沢の信念の内省的な側面を捉えて、「アキラメ主義」と批判しました。これに対し、『精

神界』では、浩浩洞の多田鼎が反論しました。多田は、

『歎異抄』後序の、親鸞が師法然と同じ信心であると述べたために他の弟子たちと争論になった話を取り上げます。その上で、まさに清沢は、当時の親鸞と同じ立場にあると、いわば今親鸞として清沢を擁護しました。こうした考察を通して、私は、清沢満之像がいかに創り上げられていくかを、少しですが、理解できました。

つまり、私が、雑誌メディアとしての『精神界』に着目し、清沢以外の浩浩洞同人たちの論説にも着目したのは、特別視されてきた清沢満之という人やその思想を、思想史という歴史のなかで理解し直すためでした。これは、学生時代に学んだ、思想テキストを歴史的・社会的な背景（コンテキスト）に置いて理解する

という、当時としては、新しい手法に基づくものでした。

「家庭」に着目する意義

話を戻します。私は、近代大谷派の教えは、浩浩洞同人の『精神界』と「精神主義」が中心だと思い込んでいました。しかし、『家庭』の発見は、私に、近代大谷派の教えには、男性向けと女性向けで異なる教説があったのではないか、という直感を与えました。そこで、『家庭』誌を考察する意義は、単に女性向けに語られた教えを明らかにするだけでなく、いわば兄妹のような関係にあった『精神界』の論説と関連付けることで、「精神主義」思想や、近代大谷派の教化の特徴をより深く理解できる点にあると考えています。



『清沢満之全集 第八巻 信念の歩み一日記』
（岩波書店）
『臘扇記』を掲載

組門徒会研修会

今あるこの身の事実をいただく

出版部会 山城第4組 光久寺 徳田 潤子



6月9日(月) 14時から、山科別院

長福寺本堂にて山城第四組門徒会研修会が開催されました。

雨にも関わらず、組内六ヶ寺から組門徒会員、住職、坊守合わせて38名が出席しました。

今回は5月に続いて第2回目の研修会で講師は第1回目につき、駐在教導の磯野恵嗣先生でした。

先生には組門徒会研修テキスト『真宗の教えと宗門の歩み』(東本願寺出版)を基に親鸞聖人が歩まれた生涯、そして「正信偈」の内容を一句ずつ丁寧に解

説していただきました。

組門徒会員としてだけでなく、私達真宗門徒は何を大事にして生きているのかを問いただされる時間になりました。

講義の中で「浄土真宗は因を大切にする」という言葉が心に残っています。

「因をいただくということは、今あるこの身の事実をいただくこと。それによつて歩みをすすめていく生き方を賜ることだ。」と先生は力を込めてお話しされていたことが印象的でした。

今、組門徒会後は後継者不足で新しい会員がなかなか増えないことが課題となっています。

しかし、組門徒会としては今ある学びの場を途絶えさせず研修会を継続させたいという願いがあります。

今後ともできる限り、皆様と共に学びを深めていきたいと思っております。

10年後のお寺を想像し、創造する

出版部会 近江第8組 上宮寺 早川 直子



滋賀県東近江市の十三ヶ寺で成る近

江第八組では、二〇二三年から三年間にわたり、本念寺において、「10年後の

お寺を想像し、創造する」をテーマに組門徒会研修が行われてきました。組長である本念寺住職横田眞さんは、将

来にわたつて地域の中で仏事が相続されていくため、門徒お一人一人に仏事の

こころを伝えていく研修として、組門徒会員に今抱えている思いや課題をお話

していただく座談を企画されました。

四月二十七日の研修では、難波別院法務部長兼教務部長(当時)の竹中慈

祥師を講師に迎え、真宗における座談の重要性和座談の方法について講義をい

ただきました。その後、グループに分か

れて「雑談座談」を実施しました。配布されたレジメに書かれたお題は、「生

きたお花を仏様に供えるのはなぜ?」

といった仏事に関する問いでしたが、「題にこだわらず、脱線もOK」という講師

の講義どおり、参加者それぞれの思いがその場に自由に出され、次々と話が広がりました。

横田さんは、「今まで座談と言っても

門徒さんの間ではしつくりこないように感じていた。雑談座談としたことで意識

が変わつたように思うが、さらに積極的に門徒さんに参加していただくことが課題」とおっしゃいました。

この形式の研修は二〇二四年度でいったん終了とのことですが、それぞれのお寺に「話を出し合い、聞き合う」環境がもつとできれば、状況が変わっていくのではないかと期待を感じる研修でした。



組門徒会研修会



本念寺

特集

岡崎別院落慶法要円成

生まれ変わった岡崎別院

岡崎別院落慶委員長 山城第2組 唯明寺 亀田 晃巖



二〇一七年に始まった「岡崎別院総合整備事業」が本年四月二十六日の落慶法要をもって無事円成しました。

当日は完璧な青空に恵まれ、新門導師のもと約50名の僧侶の声明と雅楽の音色も素晴らしく、莊重の中にも華やかに勤められました。本堂内はもとより外廊下に設けられた臨時の特別席からも溢れ出す多くの参詣者一同、感動をもつてこの日を迎えました。また夕刻よりホテルオークラでの祝賀会も盛大に行われました。

四月十九日にはプレイベントとしての



落慶法要

「岡崎別院落語会」は本堂が笑いつつまれ、五月十一日のアフターイベント「おかざき別院フェスティバル」

ル」は約千人の老若男女が集まりました。境内は「花まつり」を中心に、ゲームあり、大道芸あり、キッチンカーあり、コンサートありの大賑わいの一日でした。メディアでも大きく紹介され、市民の皆さんに大きくアピールすることとなりました。

すっかり整備され新しくなった岡崎別院がいよいよ再スタートします。本堂は勿論、庫裡事務所棟の全面改築に加え「法要会館」を新たに建立し、葬儀、仏前結婚式等多様な要望に応えるようになり、二階には「納骨堂」を設け、御門徒が安心して納骨できる施設を設けました。また、池泉回遊式の庭園も立派に完成し、水琴窟やお茶室も楽しんでいただけます。「親鸞屋敷」と称された岡崎別院が、お念仏をいただく場としてできるだけ多くの人を迎え、開かれた別院として、子々孫々、世界へ広がる別院であってほしいと願います。

岡崎別院落慶記念イベント

岡崎別院落慶記念イベントとして四月十九日（土）に「岡崎別院落語会」を、五月十一日（日）に「おかざき別院フェスティバル」をそれぞれ開催いたしました。

このイベントは、「岡崎別院は、今まで来たこともない人がこれから来ていただけるようなお寺でなければならぬ。そこで、この機会に岡崎別院を広く知ってもらおう」という亀田委員長の基本方針で企画しました。

落語会は、本堂の広縁を拡張して座席を五割増やしてもその三倍以上の申し込みがあるという大盛況となりました。抽選で選ばれた入場者で満堂の本堂は、上方落語協会会長の笑福亭仁智師匠と笑福亭大智さんの落語で笑いの渦に終始包まれました。



フェスティバルチラシ

山城第2組 澄江寺 菅原 信顕

フェスティバルは、花まつり、音楽、パフォーマンス、物販、体験、ゲーム、飲食など、大人も子どもも楽しめる内容を、この誌面では紹介しきれないくらい盛り込み、さらにプロ顔負けのチラシを三万五千枚作成して広報しました。その甲斐あって開場と共に大いに賑わい、最後まで客足が途絶えることなく大盛況となりました。

多くの来場者から「来年もあるのか」と聞かれるくらい楽しんでいただけたことは大変嬉しかったです。しかし、それ以上に、企画委員、広報委員、当日スタッフが苦勞を共にし、来場者と共にイベントを楽しみ、組や寺族、門徒の垣根を越えて日常ではできない交流ができたことが何よりもよかったと思っております。



落語会

今、この時に、

親鸞聖人に会う



初心に戻る

京都教区推進員連絡協議会

副会長

長浜第16組 西光寺
さいこうじ

おたに きょうへい
大谷 京平



私は平成15（二〇〇三）年にお手次寺のご住職からのお薦めを頂き推進員養成講座を受講致しました。当時、私も45歳で金融機関に勤めており、後期教習を修了し推進員の資格を頂いてから約10年間は組推進員連絡協議会（以下、組推進協）の研修会に参加をさせて頂く程度の活動でした。

転機を迎えましたのは、今から約10年余り前です。長浜第16組の組推進協

の辻正義会長さんより一緒に手伝つてほしいとお話を頂き、副会長として活動をさせて頂く事になりました。辻さんは手に持った物を置いてでも皆のために尽くされる方で、私には到底真似ができないと思っていました。そこからは「門前の小僧」として自分が出来る限りの事を精一杯取り組みました。その後、辻会長さんから会長職を受け継ぎ現在に至っています。

今年の1月から長浜第16組で同朋の会推進講座がスタートし、前期・後期教習にサブスタッフとして赤川顕次副会長さんと共に参加致しました。6月の後期教習にも参加し、22年ぶりに「宣誓式」に立ち会う事となりました。受講生の皆さんが昨夜、一生懸命に考えた宣誓文を御影堂の親鸞聖人の御真影の前で誓われる姿を見た時、自分が宣誓したあの時が頭の中に浮かびました。日頃、推進員の原点に立ち返り、その役割を果たしていきましようと思いをかけて頂いている私ですが、「原点」とは何かと改めて問い直してみました。まさに「宣誓式」にて誓った時の気持ちこそが原点ではないかと気付いた次第です。「初心に戻る」という事が推進員の原点に立ち返る事であり、それを踏まえた

上でお寺さまと協力し、お手次のお寺、組を盛り上げていく役割を果たしていく事が大事であると改めて思いました。

現在、教区推進員連絡協議会（以下、教区推進協）の副会長の職を頂いており、昨年7月からの教区改編を受け、教区推進協としても新組織として、この1年間試行錯誤を繰り返しながら活動してまいりました。その間には、旧京都・長浜両教区の各組の役員さん、数多くの諸先輩、ご住職方と出あわせて頂く機会を得ました。

最近、特に感じますのは、人との出会いを通して自分が普段気づいていない事を確かめ直させて頂く機会が多いということです。

人と出あい、その人の話・後ろ姿を通して自らの生き方・考え方を見つめ直し、仏法の教えに出遇っていききたいと思っています。

最後になりますが、昨今の生活環境や社会状況の大きな変化により、「寺離れ」が進んで来ていると感じています。こういう時期だからこそ、教区推進協としては、今回の教区改編を機縁として前向きに取り組んでいきたいと考えています。推進員がお手次のお寺、各組を盛り上げていく役割を果たしていくよう微力ではありますが精一杯頑張っていきたいと思っています。

合掌



後期教習での宣誓文作成



後期教習での講義

男と女の平等って、 なに？



日常生活に思うこと

出版部会 近江第26組 徳乗寺 比叡谷 真



先週末から連れ合い（副住職）がご本山に向向しているため、朝夕のお勤めを一手に引き受けている。真宗寺院の住職なら当たり前のことなのかもしれないが、気が重い日々が続いている。日々の勤行が重荷であるとは、私の場合、決定的に住職に向いていない。あるいは、住職が一人法務を担当するかたちには向いていないということだと思う。

あらためて考えてみると、最初から二人で朝夕の勤行や寺役を分担しようとしていたわけではない。心身繊弱な私が、住職としての本来的な責任をなんとかして担うべく試行錯誤するなかで結果的に現状そうなっているに過ぎない。

以前、近隣他派住職の「住職は替えがきかない」という言葉を、旧弊な考えだと思いつつながら黙って聞いていたことが

あったが、そもそも私自身考えが古く、責任感が強すぎるタイプなので、同じように、「すべての法要は住職が執行しなくては」との考えにとらわれていたかもしれない。

だが、住職としての資質に劣る私が、その責務の一端でも荷負するということの中身は、二四時間三六五日でないとしても、南無阿弥陀仏の教えを聞く生活を最優先することであり、そこでは寺院役職や性別など些事に過ぎないと、住職になつて一〇年が経つなかで考えるようになった。誰から教わったことだと確言できないが、私に先立つ先輩方の歩みの総体に促されてのことだと感じている。

連れ合いが戻るまで残り数日、聞法生活として平生の勤行を続けたい。

あなたの席はどこですか？

出版部会長 浜第12組 真廣寺 竹中 亜希子



奈良から滋賀県米原市に嫁ぎ、初めての報恩講へお参りした折、少し驚いたことがありました。

それは門徒さんたちの中でも、男性は前方に、女性は後方にと、座る位置が自然と分かれていたのです。夫婦でお参りされても、それぞれ別に座られる風景。

大阪の親戚のお寺では、家族ごとと並んで座っていた記憶があり、地域によつて習慣が異なるのだと納得しつつ、違和感を感じる自分がありました。

後日、その話を知人のお寺の方にとすると、なにがおかしいのかな、と言う顔をされました。湖北地方ではこれが普通の景色だったようで。皆さんのお寺では、どのように席につかれていますでしょうか？

農村部では、昔から男性が表に立つ文化が根強く、女性

は控えめな存在とされてきた名残かもしれません。寺の役員として、女性の参加を促してもなかなか進まないのは、そこに原因があるのでは？とも思えます。

一方、子どもの学校行事に参加すると、生徒会長や応援団長を務める女子を目にすることが増えました。今まで母親が主となって関わってきた子育てにまつわる事柄にも父親が積極的に参加する場面も多

いです。自分が子育て真っ最中の頃と比べると、隔世の感があります。ジェンダー教育が少しずつ浸透してきていることを肌で感じるこの頃。

それぞれの立場や個性を尊重し、協力し合う姿勢が広がっていくことで、これからの寺院運営にも新しい風がもたらされることを願うばかりです。

京都教区 10月の教区事業

1日(水)	14:00～16:00	ハンセン病問題に関する研修会	教区会館 2階 大講堂
2日(木)	10:15～14:30	教区坊守会 一日研修会	山科別院
8日(水)	9:30～15:30	教区坊守会 真宗基礎講座 (Zoom 併用)	教区会館 2階 大講堂
10日(金)	13:00～15:00	教区准堂衆会 女声声明講習会	教区会館 2階 大講堂
20日(月)	14:00～16:00	教区仏教青年会 仏花講習会	大津別院

京都教区 10月の教区諸会議

7日(火)	14:00～17:00	参事会・常任委員会 懇談会	教区会館 2階 大講堂
21日(火)	13:30～16:30	教化本部 企画室 会議	教区会館 2階 大講堂
23日(木)	13:30～16:30	教化本部 出版部会 編集会議	Web 会議 (Zoom)

教務所からのお知らせ

得度受式者

二〇二五年八月四日

- ・長浜第十九組 勝圓寺 八木 旺佑
- ・長浜第十九組 了福寺 松見 直生
- ・山城第二組 法光寺 春日 燈真
- ・山城第三組 永福寺 片岡 顕信
- ・山城第三組 永福寺 片岡 夏海
- ・近江第二組 養蓮寺 日野 正受
- ・近江第七組 榮正寺 山田 瑛太
- ・近江第七組 榮正寺 山田 大登
- ・近江第十一組 善敬寺 大照 敏都
- ・近江第十一組 妙徳寺 種村 隆樹
- ・因伯組 照明寺 澤田 悠仁

二〇二五年八月七日

- ・長浜第十三組 長圓寺 木原 大雅
- ・長浜第十六組 憶念寺 藤澤 聡
- ・長浜第二十組 宗念寺 三浦 廣祥
- ・長浜第二十組 宗念寺 三浦 朝慧
- ・長浜第二十組 玉泉寺 野寺 繕至
- ・長浜第二十一組 願正寺 伊吹 逢成
- ・長浜第二十一組 願正寺 伊吹 奏連
- ・近江第六組 本誓寺 野田 郁人

住職任命者

二〇二五年八月二十八日

- ・近江第四組 正福寺 川田 久美子

敬弔について

「敬弔」については、宗派発行の『真宗』誌または、京都教区発行の教務所長各組巡回『事務連絡資料』をご覧ください。

長浜教務支所の現金取扱日について

長浜教務支所の現金取り扱い日は、左記のとおりです。

10月6日(月)	10月20日(月)
11月4日(火)	11月17日(月)
12月8日(月)	12月22日(月)
1月19日(月)	
2月9日(月)	2月24日(火)
3月9日(月)	3月23日(月)
4月6日(月)	4月20日(月)

教務所・教務支所の開所時間について

宗務役員の働きやすさ改革に伴い、教務所及び教務支所の来客の受付時間を午前九時から午後四時三十分までとし、午後四時三十分からは教務所及び教務支所を閉所いたしますので、ご理解ご協力を賜りますようよろしくお願い致します。

依頼「令和六年能登半島地震」

災害に対する救援金の勧募について

昨年(二〇二四年)一月一日に発生した能登半島地震から一年半余り経過いたしました。これまで、教区内のみならず被災地の支援にご理解をたまわり、救援金をお寄せいただいておりますこと、この場をお借りして御礼を申し上げます。

このたびの地震の影響を受けた北陸の地は、真宗門徒の多い地域であります。とりわけ震源地である能登地方は多くの寺院・ご門徒が甚大な被害を受け、今もお深い悲しみと不安の日々を過ごされております。真宗大谷派として、今後も全力を傾注して支援策を講じてまいります。地震発生直後から、真宗大谷派寺院の被害状況や今日までの支援活動の様子などは、真宗大谷派Webサイト内でも随時お知らせ更新しております。また、公式SNS(X)でも発信しています。

京都教区としても、息の長い被災地支援を続けてまいりたいと存じます。なにご趣旨をご賢察たまわり、救援金勧募などの被災地の支援に引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

真宗大谷派Webサイト内
令和6年能登半島地震について

災害情報公式X(旧ツイッター)



京都教区別院 10 月の行事予定

5日(日)	12:00～13:00	赤野井	定例法話(教如上人御命日速夜)	法話 中川 眞 師(別院輪番)	赤野井別院
5日(日)	13:30～16:10	五 村	五日講(五村別院開基教如上人御祥月命日)	法話 池田 英二郎 師(大坂教区 宗恩寺)	五村別院
6日(月)	14:00～16:00	伏 見	声明作法講座	法話 浅井 誠 師(山城第3組 皆演寺)	伏見別院
10日(金)	14:00～17:00	伏 見	伏見別院同朋会 御文輪読		伏見別院
13日(月)	10:00～11:30	岡 崎	三日講「歎異抄を読む」	法話 近藤 悠 師(別院輪番)	岡崎別院
14日(火)	13:00～16:00	大 津	報恩講 13:00 讃仰音楽法要・14:00 速夜	法話 日野 直 師(小松大聖寺 教区 西照寺)	大津別院
15日(水)	7:30～12:00	大 津	報恩講 7:30 晨朝・10:00 日中	法話 日野 直 師(小松大聖寺 教区 西照寺)	大津別院
16日(木)	13:30～15:30	山 科	同朋の会	法話 磯野 恵嗣 師(教区駐在教導)	山科別院
22日(水)	10:00～15:30	長 浜	報恩講 10:00 全戦没者追弔法会・13:00 初速夜	法話 龍 茂樹 師(大坂教区 善念寺)	長浜別院
23日(木)	7:00～15:30	長 浜	報恩講 7:00 初晨朝・10:00 初日中・13:00 中速夜	法話 京極 眞了 師(長浜第12組 即往寺)	長浜別院
23日(木)	10:00～12:00	岡 崎	報恩講	法話 竹橋 太 師(本廟部出仕)	岡崎別院
23日(木)	19:00～21:00	伏 見	親鸞教室	法話 藤原 正寿 師(大谷大学准教授)	伏見別院
24日(金)	7:00～15:30	長 浜	報恩講 7:00 中晨朝・10:00 中日中・13:00 結願速夜	法話 五辻 元 師(三重教区 浄光坊)	長浜別院
25日(土)	7:00～11:30	長 浜	報恩講 7:00 結願晨朝・9:00 日中法話・10:00 結願日中	法話 五辻 元 師(三重教区 浄光坊)	長浜別院
25日(土)	14:00～16:00	山 科	八代講	法話 平原 晃宗 師(山城第5組 正蓮寺)	山科別院
26日(日)	13:30～16:00	赤野井	報恩講 初速夜 引き続き初夜(御伝鈔)	法話 二階堂 行壽 師(東京教区 専福寺)	赤野井別院
27日(月)	8:00～16:00	赤野井	報恩講 8:00 晨朝・10:00 日中・13:30 速夜	法話 二階堂 行壽 師(東京教区 専福寺)	赤野井別院
27日(月)	14:00～16:00	伏 見	ご命日のつどい	法話 七尾 真澄 師(大坂教区 浄恩寺)	伏見別院
28日(火)	8:00～12:00	赤野井	報恩講 8:00 晨朝・10:00 日中	法話 二階堂 行壽 師(東京教区 専福寺)	赤野井別院
28日(火)	10:00～15:20	五 村	報恩講 10:00 全戦没者追弔法会・13:00 初速夜	法話 春近 寛 師(長浜第14組 皆念寺)	五村別院
29日(水)	7:00～15:30	五 村	報恩講 7:00 初晨朝・10:00 初日中・13:00 中速夜	法話 一色 孝 師(長浜第13組 光西寺)	五村別院
30日(木)	7:00～15:30	五 村	報恩講 7:00 中晨朝・10:00 中日中・13:00 結願速夜	法話 竹原 了珠 師(能登教務所長)	五村別院
31日(金)	7:00～11:30	五 村	報恩講 7:00 結願晨朝・9:00 日中法話・10:00 結願日中	法話 竹原 了珠 師(能登教務所長)	五村別院

京都教区 公式SNSあります

公式SNSで更新情報などを配信しています。1,000カ寺を超える寺院・教会がある京都教区ですが、登録者数はまだまだ少ないです!ぜひご登録をお願いします!



Facebook,
Instagram
もちろんあります!



LINE公式アカウント
2025年9月2日現在
登録者数231名
LINE ID @441foywe



今回の記事で特に心に残ったのは、近江第八組組門徒会研修会のテーマ「10年後のお寺を想像し、創造する」でした。今できることから少しずつ始め、未来に向かって前向きに歩んでいこうという思いに共感しました。私もお寺に入ったばかりの頃、近所の門徒さんに「10年後にできるようになっていたらいいかな」と声をかけてもらい、励みになったことを思い出します。小さな歩みでも続けていけば、ともに大切なものとなっていくのだと思います。

(出版部会 竹中 亜希子)

編集後記

今回の記事で特に心に残ったのは、

教区だより表紙写真大募集!!
本誌表紙写真を大募集いたします!

テーマは宗祖親鸞聖人御誕生八五〇年・立教開宗八〇〇年慶讃法要テーマ「南無阿弥陀仏人と生まれたことの意味をたずねていこう」です。詳しくは京都教務所まで。お待ちしております!



【表紙の写真】秋の渉成園(小山大来/山城第2組圓重寺)

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌 教区だより 第425号

真宗大谷派 京都教区 Webサイト <https://www.k-kyoku.net>

【発行人】宮戸弘(真宗大谷派京都教務所長) 【発行所】真宗大谷派京都教務所 【発行日】2025(令和7)年10月1日
〒600-8164 京都市下京区花屋町通烏丸西入 Tel 075-351-5260 Fax 075-351-5256 Mail kyoto@higashihonganji.or.jp

